

『日本の古代史とその文化』セミナー
シリーズ5「日本の神社と神々」

第1部「熊野信仰と神々」の講座計画



第1回(XX/XX/'XX) 熊野権現の神々

第2回(XX/XX/'XX) 熊野信仰の礎

第3回(XX/XX/'XX) 熊野速玉大社の神々と由来

第4回(XX/XX/'XX) 熊野那智大社の神々と由来

第5回(XX/XX/'XX) 熊野本宮の神々と由来

第1回 熊野権現と神々

- **神社の一般知識**(参照資料:神社の一般知識を使用)
- **熊野詣の由来**
- **熊野権現**
- **熊野信仰と自然崇拜の環境**

中心出典:「なぜ八幡神社が日本で一番多いのか」 島田裕巳著(幻冬舎)
「熊野大神」加藤隆久監修(戎光祥出版)
「日本書紀」(宇治谷 孟著、講談社)
「古事記」(竹田恒泰著、学研)
「日本史図録」(山川出版社)他

1. 神社の一般知識

参照資料：神社の一般知識

- ◆参照資料1－1：日本の神社信仰
- ◆参照資料1－2：神社の制度
- ◆参照資料1－3：神社の構成要素
- ◆参照資料1－4：屋根の代表構造
- ◆参照資料1－5：神社の建築様式（基本形）
- ◆参照資料1－6：神社境内構成配置図（出雲大社例）

2. 熊野詣の由来

①平安時代に浄土教信仰が流行してから熊野詣(熊野古道経由)が盛んになる。「権現様」と愛称される。

* 熊野信仰には神仏習合の側面が非常に強い。

* 霊場熊野は、熊野本宮(ほんぐう)大社(本宮)、熊野速玉(はやたま)大社(新宮)、熊野那智(なち)大社(那智)、青岸渡寺(せいがんとじ)、補陀落山寺(ふだらくさんじ)の三社・二寺で構成されます。

* 極楽浄土への思い

・現在、那智大社がある「那智」は千手観世音菩薩の住まう「補陀落(ふだらく)浄土」とみなされ、熊野速玉神社のある新宮は薬師如来の「東方浄瑠璃世界」とみなされ、熊野本宮は阿弥陀仏の「西方極楽浄土」とみなされた。⇒。

・その他に、お釈迦様の霊山浄土^{注(りょうぜんじょうど)}など。

(注) 霊山は釈迦がしばしば説法を行ったとされる霊鷲山(りょうじゅせん)の略。《法華経》は霊鷲山で説かれたので、釈迦の浄土とされた。

②修験道と熊野御幸

* 修験道:「本宮と大峰修行」、「新宮と神倉修行」、「那智と滝本修行」という修験道の霊地。

* 熊野御幸: 上皇・法王の御幸(ごこう)。この熊野御幸の上位には鳥羽上皇(二十一回)、後白河上皇(三十四回)、後鳥羽上皇(二十八回)があり、九名の上皇・法王が実践。

3. 熊野権現

(1) 熊野三山社殿構成

参照資料1-7-①

①社殿は熊野三所権現、熊野十二所権現からなり、建築様式は「熊野づくり」である。

②熊野三山の権現: 熊野本宮大社(本宮)、熊野速玉大社(新宮)は12柱、熊野那智大社(那智)は1柱追加して13柱。前者を12所権現、後者を13所権現という。

(2) 熊野三所権現、熊野十二所権現

熊野権現は熊野三所権現、熊野十二所権現と言われる。

- ① 三所とは、**家都美御子大神**（けつみみこのおおかみ）（本地仏：阿弥陀如来）、**速玉大神**（本地仏：薬師如来）、**夫須美大神**（本地仏：千手観音）の三権現。

参照資料1-7-②

- ② 十二所とは、三所権現に加え九所の本地仏を加える。

参照資料1-7-③

- ・第四殿 十一面観音、第五殿 地蔵菩薩、
- ・第六殿 龍樹菩薩（りゅうじゅぼさつ）、第七殿 如意輪観音、第八殿 聖観音、第九殿 文殊菩薩
- ・普賢菩薩、第十殿 釈迦如来、第十一殿 不動明王、第十二殿 毘沙門天

- ③ 熊野権現を勧請した各地の神社は、熊野神社、十二所神社、十二社神社と呼ばれる。

4. 熊野信仰と自然崇拝の環境

真の姿をとらえようと、心をしずめて
深く思い入ること

- ◆熊野は、他界・異郷・常世への出入り口であり、日本一の霊場である。
 - ・黒潮信仰は海のかなたから漂着する稀人神の観想の上に成立したものであり、海彼常世（かいひとこよ）との接点の地として常世信仰を生んだ。（串本町は本州最南端）
 - ・かくして、伊弉冉の葬送伝承（書紀）、少彦名命の常世行きが作られた。

海のかなたの常世の意

- ◆家都（美）御子大神（けつみみのこのおおかみ）を主神とする熊野本宮大社（本宮）
熊野川・音無川・岩田川の合流する巴ヶ淵（ともがふち）のあたりの大斎原（おおゆのはら）は幽邃（ゆうすい）の地であり、修験道の聖地である大峰・吉野への入り口でもあった

参照資料5-2

景色などが奥深くて物静かなこと

- ◆速玉大神（はやたまおおかみ）を主神として祀る熊野速玉大社（新宮）
 - ・熊野川が海に注ぐ南岸にあり、黒潮洗う太平洋に面していたため海外よりの渡来者が多く、常世伝説が残っている。新宮に伝わる「御船祭」は神の鎮座を思わせる。
 - ・神武天皇の故事で名高い神倉山の峙立（そばだち）も霊地として高めた。

- ◆夫須美大神（ふすみおおかみ）を主神とする熊野那智大社（那智）
祭神組織が「成立する以前から美しい那智の滝は名高く、この瀑布をご神体と仰ぐ信仰が発達したことは明白である。

⇒修験道の発達によって、「本宮と大峰修行」、「新宮と神倉修行」、「那智と滝修行」という修験道の霊地との所以は熊野三山の自然環境がベースになった。